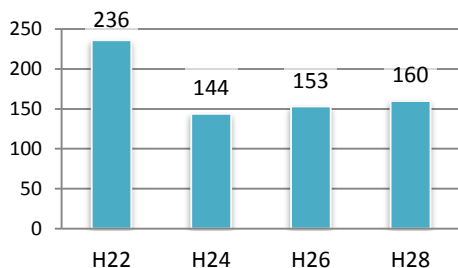
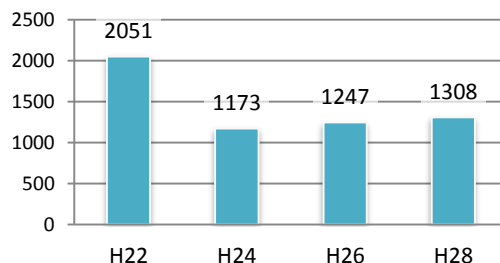


【現状及び課題】

- 原子力災害による人材流出・医療機関の閉鎖
- 避難の長期化、健康指標の悪化



相双エリア医師数推移（単位：人）



相双エリア看護職員数推移（単位：人）

【対応の方向性】

- 避難地域に対する重点的支援
- 3つの柱に基づく短期的/長期的支援



【人材確保の主な取組み（短期）】

- 浜通り医療提供体制強化事業
 - 看護職員ふるさと就職促進等事業
 - 浜通り看護職員確保支援事業
- 医療従事者確保を行う、浜通りの病院・自治体を支援。

| 事業名 | 補助件数 | 金額 |
|---------------|------|-----------|
| 浜通り医療提供体制強化事業 | 34件 | 717,022千円 |
| ふるさと就業促進事業 | 6件 | 116,645千円 |
| 浜通り看護職員確保支援事業 | 33件 | 80,358千円 |

※ 上記のほか、非常勤医師の派遣、ドクターバンク運営等の短期的効果が見込まれる事業を実施。

【人材確保の主な取組み（長期）】

- 医師確保修学資金貸与事業
 - 保健師等、理学療法士等修学資金貸与事業
- 将来、県内で勤務しようとする医療系学生に対して、修学資金を貸与。

| 対象職種 | H29貸与者数 (新規+継続者) |
|---------------------------|---------------------|
| 医師 | 286名 |
| 保健師、看護師、助産師、准看護師 | 217名 |
| 理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、歯科衛生士 | 330名 |

- 県立医大（仮称）保健科学部設置準備
- 理学療法士等4職種の安定的な確保のため、2021年4月開設を目指す。

県内医療人材の確保のため、各種事業の長期的継続が不可欠

国-自治体-医療機関等の
緊密な連携が必要